



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.90
植物化石から見る神戸の
太古の森 / 半田 久美子
2010年9月発行

第90回テーマ： 植物化石から見る 神戸の太古の森

講演内容

- 神戸の植物化石
- 丹波の恐竜化石
- 神戸の森のおいたち



講師：半田 久美子さん（プロフィール）
1970（昭和45）年生まれ、40歳、栃木県出身。大阪市立大学理学研究科修了（専門は花粉分析）。兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部 埋蔵自然遺産研究グループ／生涯学習推進室 主任研究員、理学修士。植物化石を担当。ひとはくフェスティバルの運営や、丹波の恐竜化石の発掘にも携わっている。



植物化石（ブナの仲間、ナラの仲間など）

実施日：平成22年9月18日（土）
午後1時～3時45分
場所：六甲山自然保護センター

少し涼しい六甲山で賑やかなセミナー

午前10時の記念碑台は26℃で曇りでした。環境整備の定例活動には9名が参加し、散策路の植生調査やアセビ実験区の環境調査や樹木調査などに精を出しました。

午後の市民セミナーは37名という予想以上の参加者で、講演の初めから質問が飛び交う活発さでした。

「人類の起源への関心」が花粉分析に導いた

講師の半田 久美子さんは兵庫県立人と自然の博物館の自然・環境評価部の主任研究員で、植物化石や花粉分析の専門家です。植物化石の研究とともに、脚光が当たっている丹波竜の発掘調査にも携わっておられます。

最初にお会いした時に「どうして花粉分析の研究をされたのですか？」と質問し、「子どものころから人類の起源に関心を持っていた」とお聞きして、その原点を知りました。

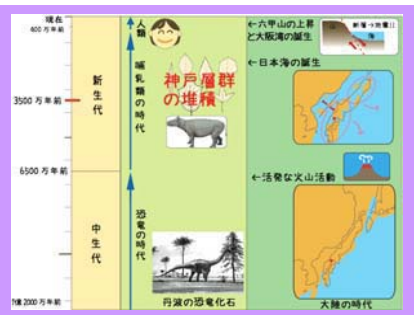
セミナーには顕微鏡や珪化木などもお持ちいただき、一般の人が馴染んでいない太古の世界へご案内いただきました。「100万年という想像しにくいですが、百万円というわかりやすい」と、太古の時代を理解するコツも教えていただきました。

恐竜や太古の森が見えてきた

冒頭の神戸の植物化石で、森林植物園に樹の化石・珪化木があり、太古の森が再現されていることを説明されました。

樹の化石により植生から森の生い立ちを推定するお話に興味が集まりました。

1億2000年前



1億2000万年から現在

に活躍した恐竜の話に進んで、丹波竜の発掘調査のエピソードなどを紹介されました。鳥類が恐竜の一族であったという説明には驚きの声もあがりました。

終盤は「神戸の森のおいたち」として、時代を追いながら、気候の変動や植物の変遷を解説されました。3万年前の花粉分析から日本海は湖状態であったと推定され、森や植物が気候に適応して衰退を繰り返すと述べられました。

地球の温暖化が寒暖のいずれに向かうのか、大きな変化の中で理解することを示唆して締めくくられました。

生物多様性の保全にも関心を深めた

化石の標本や写真・イラストなどを使って、太古の時代を目で見てわかるようにご説明いただきました。どんな難しい話になるか心配しながら参加した方も、興味と関心をかきたてられて大満足の様子でした。森や地球環境の変遷を目にできたことから、半田さんが意図されていた「生物多様性の保全が未来の森の保全につながる」ということへ、自然な理解が促されたように思われました。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 平道 百合子さん

前々から山や自然が好きで、その縁で知りあった旦那さんが偶然つけてきたセミナーのチラシ。興味津々で見ていると「神戸太古の森」という字に引き付けられ、今日初めて参加してみました。



記念すべき90回ということもあり、参加者でいっぱい室内はセミナー中も質問が飛び交い、活気的で楽しい時間を過ごせました。知っているようで知らなかった六甲山の奥深さに、益々六甲山が好きになりました。素敵な時間をありがとうございました。

【助成金をいただいている機関】

セブン-イレブン記念財団、大阪コミュニティファンド（東洋ゴムグループ環境保護基金）、子どもゆめ基金、コベルコ自然環境保全基金、コープこうべ環境保護基金

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会